

A meta-CGI for light-weight implementations of Mashups and its architecture

森, 雅生
九州大学大学評価情報室

中藤, 哲也
九州大学情報基盤研究開発センター

廣川, 佐千男
九州大学情報基盤研究開発センター

<http://hdl.handle.net/2324/6082>

出版情報 : 2007-05-31
バージョン :
権利関係 :



マッシュアップを簡単に実現するメタ CGI とそのアーキテクチャ

森 雅生[†] 中藤 哲也^{††} 廣川 佐千男^{††}

複数の異なるコンテンツやサービスから新たなウェブサービスを再構成して展開するマッシュアップが注目されている。これは XML データ取り扱いや Perl, PHP, JavaScript などの専門的な技術を駆使して実装される。本稿はウェブサービスの検索に重点をおいたマッシュアップをサーバサイドで簡単に実行できるアーキテクチャを提案する。

A meta-CGI for light-weight implementations of Mashups and its architecture

MASAO MORI [†], TETSUYA NAKATOH ^{††} and SACHIO HIROKAWA^{††}

Mashup is a remarkable concept that combines more than one content and services into an integrated web service. Its implementation is done with expertises, – Perl, PHP, JavaScript and XML – for instance. We propose a new architecture of a meta-CGI which enables us to construct Mashups on server side.

1. 序 文

インターネットでアクセス可能な学術論文データベースや e-コマース商品情報サイト、交通機関の路線検索データベースなどはウェブをインターフェースに持つデータベースである。これらはディープウェブ¹⁾ やウェブデータベースなどと呼ばれ、系統だった膨大な量の情報が内包されていることからその価値が注目されてきた。これまでのウェブデータベースは CGI を通してのみ内包されているデータベースにアクセスすることができないので、出力される HTML を解析してラッパーを作成する研究がなされて来ている⁵⁾⁶⁾⁷⁾。

一方、新しいコンテンツのありかたとして、データベースの所有者が情報を一般に積極的に公開し、共有しようと言う風潮が高まりつつある (Web2.0)。そこでは SOAP や REST, XML-RPC など公開されたプロトコルを用い、ウェブサービスで展開しやすいデータ形式 (XML や JSON など) で情報がやりとりされている。このような形態で情報を提供するサイトはウェブサービスと呼ばれている。上述のウェブデータベースも HTML 解析をするラッパープログラムとセットにすれば広義のウェブサービスとみなすことができる。

複数のウェブサービスを連携させることをマッシュアップと呼ぶ。マッシュアップではブラウザ上でのログイン処理やウェブサービスのアカウントに依存した情報登録なども行われる。すなわちウェブサービスからクライアントへ情報を提示するだけでなく、相互にメッセージを交換する。よってマッ

シュアップは、クライアント側とウェブサービス側のそれぞれの処理を考慮しなければならない。本稿では、ウェブサービスが提供する情報の検索機能の連携に焦点を絞り、サーバ側での処理のみで行うマッシュアップのアーキテクチャを提案する。

ウェブサービスでの検索は、一つのブラウザを一つのウィンドウで表示させ、検索結果から度々次のキーワードを選び出し、次のサイトのクエリボックスにコピーすると言った検索の定型的な反復作業が行われるであろう。本研究の動機は、これらの反復作業を簡易な方法で記述し、ウェブサービスを連携させて検索を実行する枠組と検索結果の効率的な表示方式を求めることであった。著者らは学術論文ウェブデータベース群のウェブラッパーの自動生成と機能合成の研究⁹⁾ を行い、一般に XML 形式をベースにしたウェブサービスとの連携も同様のアーキテクチャが有効であることを示した³⁾⁴⁾。

クライアント側でマッシュアップを実現するとき、AJAX による実装が広く使われている。これには JavaScript に精通していなければならないが、マッシュアップの JavaScript プログラムを簡易に記述するための仕組みについての研究がある⁸⁾。大量の検索結果を処理するため、連携を実現するスクリプトがサーバ側で実装される点で本稿の研究とはアプローチが異なる。

以下、本論文の構成は 2 章でアーキテクチャの概要を述べ、3 章ではシステムの実装について解説する。本研究は検索に力点を置くマッシュアップであり、これに関する入出力制御の重要な特徴を 4 章で解説する。

2. アーキテクチャの概要

本稿で提案するアーキテクチャを *Personally Scripting*

[†] 九州大学大学評価情報室

Office for Information of University Evaluation

^{††} 九州大学情報基盤研究開発センター

Research Institute for Information Technology

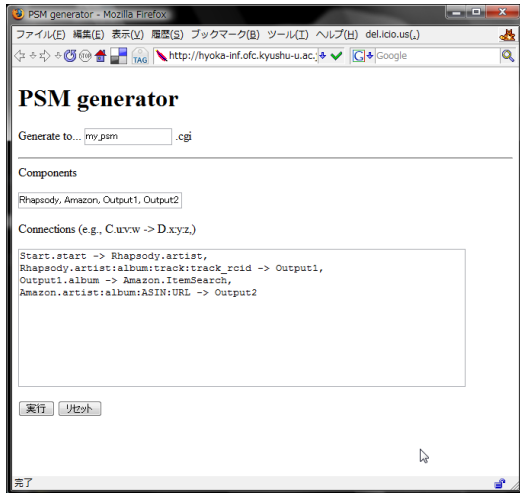


図 1 PSM サイト

Meta-CGI search architecture (PSM) と呼ぶ。本章では PSM アーキテクチャの概要を実装したサーバの挙動を例にとって紹介する。PSM は単一のウェブサーバ (PSM サーバ) で実行される。PSM サーバにアクセスすると、テキストボックスなど入力インターフェースが表示され³、ウェブサービス群を連携させるスクリプト (マッシュアップ・スクリプト) を記述することができる。CGI 生成のボタンが押されると PSM サーバは記述されたスクリプトに従ってマッシュアップ CGI を生成し、PSM サーバ自身で実行する。マッシュアップ CGI は PSM サーバ内で保存されるので、一度作成したマッシュアップ CGI をいつでも実行できる。連携するウェブサービスは事前に PSM サーバにモジュールを定義しなければならない。モジュールの定義方法は 3 章で述べる。

ユーザは PSM サーバでマッシュアップ CGI を生成するとき、次の 3 つを知っていれば良い。

- (1) ウェブサービスの入出力情報の構造。
- (2) ウェブサービスの出力からの次クエリの選択。
- (3) 検索結果からの表示したい項目の選択。

ウェブサービスで提供される詳細検索は、いくつかの属性に分けられたクエリの組合せを入力として受け付け、検索結果としていくつかの属性を組み合わせた構造を持つ情報が出力される。たとえば、音楽情報配信ウェブサービス *Rhapsody* を見てみる。「アーティスト名」「アルバム名」の属性の語句の組み合わせが検索クエリであり、「アーティスト名」「アルバム名」「曲名」などの属性が一つの組 (レコード) となり、レコードのリストが検索結果として出力される。また、Amazon.com のウェブサービスは「キーワード検索」と「製品番号検索」のいずれかを検索クエリに選ぶことができる。このように、ユーザは利用するウェブサービスがどのような情報を提供しているかを知っておく必要がある (1)。このようなウェブサー

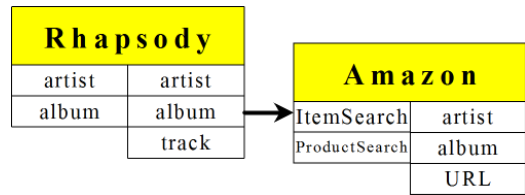


図 2 ウェブサービスと機能結合の模式図

ビスの入出力機構に備わっている属性をチャンネルと呼ぶ。入力の属性をクエリ・チャンネル、出力の属性をリザルト・チャンネルと呼ぶことにする。

ウェブサービス間のクエリ受渡しをウェブサービスの機能結合と呼び、その定義を記述したものをマッシュアップ・スクリプト (スクリプトと略) と呼ぶ (2)。各種ウェブサービスのチャンネルの性質を踏まえた上で、ユーザはウェブサービス間で受け渡される情報のセマンティクスを認識しなければならない、すなわち意味のある機能結合をスクリプトに記述する。先程の Rhapsody と Amazon の例を挙げると、Rhapsody ウェブサービスから得られた結果のリザルト・チャンネル「アルバム名」にある語句を、Amazon ウェブサービスのクエリ・チャンネル「製品番号検索」へ渡すのはあまり現実的ではない。「キーワード検索」のクエリ・チャンネルに渡すのが自然である。図 2 はこの 2 つのウェブサービスの模式図である。左右の矩形列がそれぞれクエリ・チャンネル、リザルト・チャンネルを表している。また、矢印は 2 つのウェブサービスの機能結合の模式図である。ウェブサービス Rhapsody はクエリ・チャンネルに artist と album、リザルトチャンネルに artist, album, track を持つ。ウェブサービス Amazon は CD 情報に特化している。クエリチャンネルは ItemSearch (キーワード検索) と ProductSearch (製品番号検索) リザルト・チャンネルが artist, album, URL (詳細情報 URL) をもつ。機能結合の定義はウェブサービスのクエリ・チャンネルとリザルト・チャンネルを矢印 -> でつないで表記する。例えば、模式図 2 のような機能結合を定義するスクリプトは次のようになる。

Rhapsody.album -> Amazon.ItemSearch,

クエリ・チャンネル、リザルト・チャンネル、それぞれの属性群の組をクエリ・レコードおよびリザルト・レコード、または単にレコードと呼ぶ。ウェブサービスから出力されるのはリザルト・レコードのリスト、すなわち『表』である。ブラウザで閲覧したいリザルト・チャンネルを選びだし、次のようにスクリプトに記述すれば、選んだりザルト・レコードのリストが表示される。

Amazon.artist:album:URL -> Output2,

「Output」+「番号」はウェブサービスの出力をブラウザに「表」として表示するための機構を表わし、「出力コンポーネント」と呼ぶことにする。上の例では Amazon ウェブサービスから (アーティスト名, アルバム名, 詳細情報 URL) のレコードリストが表として表示する指定を意味する。出力コン

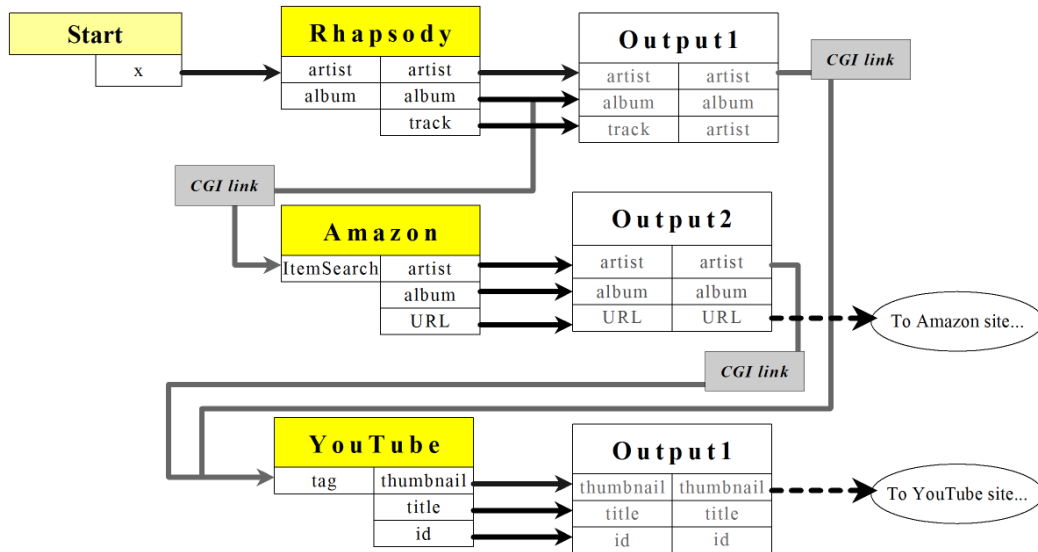


図3 マッシュアップ・スクリプト模式図

ポーネントの詳細については次章で詳説する。

以上の3点をおさえればウェブサービスの機能結合をプログラムすることができるが、次の2つの機能を加える。

- (4) 初期クエリの設定。
- (5) ブラウザ表示された語句をクエリとしてウェブサービスに渡すアンカータグの指定。

機能結合の初期クエリを次の書式でスクリプトの冒頭に記述する(4)。

```
Start.x:y -> Rhapsody.artist:album,
スクリプトから生成されるCGIが、初期クエリを入力するテキストボックスを表示する。上の例では2つのテキストボックスxとyが表示され、入力値がそれぞれRhapsodyのクエリチャンネルartistとalbumに渡される。
```

ブラウザに表示された検索結果の語句をウェブサービスへのクエリとするアンカータグをスクリプトで指定することができる。リンク先の主体はマッシュアップCGI自身であるが、当該の語句をクエリとして指定されたウェブサービスのクエリ・チャンネルに渡すように制御される。スクリプトの記述は以下ようになる。

```
Rhapsody.artist:album:track -> Output1,
Output1.album -> Amazon.ItemSearch,
Amazon.artist:album:URL -> Output2,
まず、Output1においてRhapsodyからのレコード・リストが表示される。2行目のOutput1.albumからAmazon.ItemSearchへの機能結合は、Output1に表示されたチャンネルalbumにあたる文字列をAmazonのチャンネルItemSearchに渡すリンクを表示することを意味している。結果はOutput2に表示される。このリンク機能をCGIリンクと呼ぶことにする。
```

以上の5つのポイントに従い、スクリプトを作成すれば簡単にマッシュアップCGIを生成することができる。実際には

ウェブサービス、出力コンポーネントとの宣言も行うが、機能結合を記述するだけである。まとめると以下のような記述になる。このスクリプトの模式図を図3に示す。

```
use Rhapsody, Amazon, YouTube, Output1,
    Output2, Output3;
Start.x -> Rhapsody.artist,
Rhapsody.artist:album:track -> Output1,
Rhapsody.album -> Amazon.ItemSearch,
Amazon.artist:album:URL -> Output2,
Output1.artist* -> YouTube.tag,
Output2.artist* -> YouTube.tag,
YouTube.thumbnail:title:id -> Output3
```

このスクリプトから生成されたマッシュアップCGIを実行した様子を図4に示す。

3. PSMの実装

PSMサーバは、ウェブサービスを連携させるマッシュアップCGIを生成させるメタCGIとしてperlで実装されている。この章では前述のPSMアーキテクチャに従ってPSMをどのように実装しているかを解説する。

3.1 ウェブサービス・コンポーネント

ウェブサービスのAPIに合わせた通信関数を定義したモジュールを準備する。ウェブサービス毎にこのモジュールを作成しなければならないが、この章で述べる通信モデルに基づけば定型的に作成することができる。ウェブデータベースの場合は、ラッパープログラムもモジュールの中に組み込む。マッシュアップCGIでは、ウェブサービスのモジュールからそれぞれオブジェクトを生成する。このperlオブジェクトをウェブサービス・コンポーネント、または単にコンポーネントと呼ぶことにする。

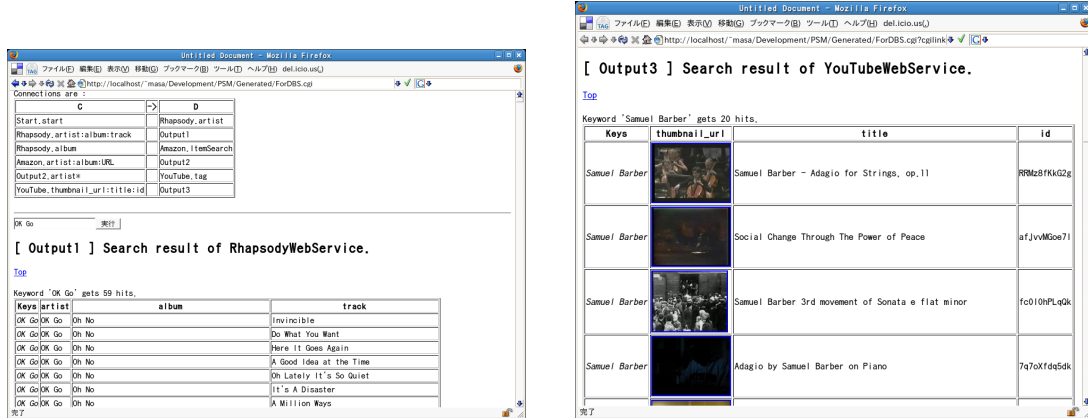


図 4 マッシュアップの実行図

3.2 機能結合の実装

コンポーネントはレコードを perl のハッシュに変換する。キーはチャンネル名 (属性名) である。多くの場合、この変換は XML データから行われる。ウェブサービスの機能結合はコンポーネント間のレコード・リストの受渡しにより実現されるが、マッシュアップ CGI はコンポーネントからハッシュのリファレンスの配列を受け取り、結合が定義されているコンポーネントにこれを「そのまま」渡す。ここで、ウェブサービスへの入力クエリと検索結果の出力とのデータ構造について注意しなければならない。多くのウェブサービスの API では、一つのクエリ・レコードに対して複数のリザルト・レコード、すなわちレコード・リストが出力される。よって、そのまま渡したのでは「型」が合わない。PSM アーキテクチャでは、クエリとして渡すデータもレコード・リストに統一する。

3.3 入出力モデル

コンポーネントの入出力データ型をレコード・リストにすることにより、ブラウザへの出力先として記述していた出力コンポーネントも、入力に関してウェブサービス・コンポーネントと同等に取り扱うことができる。出力コンポーネントはクエリ・レコードのリストを渡されるとハッシュキーを属性名としたテーブルをブラウザに表示する。

```
Rhapsody.artist:album:track -> Output1,
```

この例では、artist,album,track が Rhapsody のリザルト・チャンネルであるが、Output1 でも同じチャンネル名で表示するので、出力コンポーネントのクエリ・チャンネルは記述を省略する。出力コンポーネントのクエリおよびリザルト・チャンネル名は、与えられるレコード・リストのチャンネル名である。

出力コンポーネントから他のコンポーネントへの機能結合を CGI リンクと呼んだ。CGI リンクは、リンクの付いた文字列をクエリとしてコンポーネントに渡す処理を行う。クエリは、クエリ・レコードの単独要素リストで渡される。この文字列がいくつかのキーワードで構成され、コンマなどで区切られている場合がある。このときは Output1.artist* のようにチャンネル名の後にアスタリスクを付けることで、キーワ

ード毎に CGI リンクを作成することができる。

3.4 フィルタ・コンポーネント

テーブルであるレコード・リストで行われる簡単な統計処理や文字列処理をコンポーネントで実装している。

ソート 一番目に与えられたクエリ・チャンネルに関して並べ替えを行う。辞書式順序 (SortL) や数値順序 (SortN) など。入出力の型は出力コンポーネントと同じ。以下は track での並べ替えである。

```
Rhapsody.track:artist:album -> SortL,
```

ヒストグラム 一つの属性に着目して、そこに現れる文字列の出現回数をレコードごとに数え上げるコンポーネント。クエリ・レコードは注目する項目 (item) 一つで、リザルト・レコードは、文字列 (who)、出現回数 (num)、その棒グラフ (hist) である。

```
Rhapsody.artist -> Hist.item,
```

```
Hist.who:num -> Output,
```

Uniq レコード・リストに現れる重複を削除する。データ型は出力コンポーネントと同じ。

```
Rhapsody.artist:album -> Uniq,
```

```
Uniq.artist:album -> Output,
```

4. まとめと課題

ウェブサービスがマッシュアップの材料として提供するデータ形式は XML である。これにより、マッシュアップや Web2.0 的なウェブサービスの高い拡張性を持たせることができる。しかし、本稿で論じたウェブサービスの機能結合におけるレコード・リストは、抽象的なデータ構造でありデータ形式を特定するものではない。提案した PSM アーキテクチャでは、多くのウェブサービスが提供する XML データをレコード・リストに変換する方式をとり、これによってマッシュアップというものを次の観点からとらえることができた。

- ウェブサービス、出力コンポーネント、フィルタなどのコンポーネントは全てレコード・リスト上の関数とみなすことができる。

- 機能結合はコンポーネントの関数合成である。

また、得られた結果から新規に検索する仕組みは、CGI リンクとしてあらかじめスクリプトに定義されるが、入出力の観点から見るとこの機能も上の 2 つの枠組でとらえることができる。この枠組に基づけばウェブサービスの機能合成 (マッシュアップ・スクリプト) は、コンポーネントの合成 (チャンネルの対応) のみを記述すれば十分であることが分かる。

全てのデータをレコード・リスト形式に変換することで、以下の問題点が考えられ、今後の課題である。

- (1) XML データの変換にかかる処理時間のオーバーヘッド。
- (2) ウェブサービスごとに XML の解析が必要である。
- (3) レコード・リストでは重複データが頻繁に出現する。

この研究で実装した PSM サーバは

<http://hyoka-inf.ofc.kyushu-u.ac.jp/~mori/research/PSM/Main/>
で公開している。

参 考 文 献

- 1) BRIGHTPLANET, Deep Web, White Paper (2000).
 - 2) HEMENWAY, K. and CALISHAIN, T. *Spidering Hacks*, O'Reilly & Associates Inc. (Mar. 2003), ISBN-13 978-0596005771.
 - 3) MORI, M., NAKATOH, T. and HIROKAWA, S. Functional Composition of Web Databases, Proceedings of ICADL2006, Lecture note in Computer Science 4312, Springer Verlag (2006).
 - 4) MORI, M., NAKATOH, T. and HIROKAWA, S. A Light-Weight Implementation of Mash-Ups, Proceedings of Data Engineering Workshop 2007IEICE (2007).
 - 5) NAKATOH, T., OHMORI, K. and HIROKAWA, S. A Report on Metadata for Web Databases, IPSJ SIG Technical Reports, 2004-ICS-138(17) (2004).
 - 6) NAKATOH, T., OHMORI, K., YAMADA, Y. and HIROKAWA, S. COMPLEX QUERY AND METADATA, Proceedings of ISEE2003 (2003).
 - 7) NAKATOH, T., YAMADA, Y. and HIROKAWA, S. Automatic Generation of Deep Web Wrappers based on Discovery of Repetition, Proceedings of the First Asia Information Retrieval Symposium (AIRS 2004) (2004).
 - 8) YOKOYAMA, S., MATONO, A., PAHLEVI, S.M. and KOJIMA, I. A Framework for Modularization and Mashup of JavaScript Codes on Web2.0, *DBSJ Letters*, 5, 3 (December 2006).
 - 9) 中藤哲也, 大森敬介, 廣川佐千男「検索エンジンを部品とするエージェントの構成について」, The Third Joint Agent Workshop & Symposium (JAWS2004) (2004).
-